

芦安での活動のこと

1 特産品・文化伝承

◆ しょうゆの実 などを活用した特産品開発と次世代への継承支援

ここ芦安には昔から伝わる保存食「しょうゆの実」があります。芦安のしょうゆの実は「製法」「食味」「外見」全てが独自。そして、地域の中でも家庭ごとに少しずつ製法が違う不思議な食べ物。

この貴重な食文化を後世に残すため、若い世代を中心とした保存会も発足しました。

また、かつてはどの家でも栽培していたエゴマの栽培も地域おこし協力隊によって栽培が再開しました。

これらを活用した新たな加工食品の開発や研究、地域文化を後世に伝えていくための活動に取り組んでもらいたいと考えています。

しょうゆの実づくりの風景



2 山と集落をつなぐ

◆ 山から集落へ 芦安の魅力を伝える観光動線づくり

芦安は、ユネスコエコパークに登録された雄大な自然が残る谷間の集落です。日本で第2位の北岳・3位の間ノ岳を代表とする南アルプスの、日本一長い3,000m級の稜線を求めて、年間数万人の登山客が訪れています。ここ芦安の集落は、南アルプスへの玄関口として、古い登山史にも名前を残しています。近年は、奈良時代にまで遡る歴史と文化や、地区内の景勝地、厳しい自然環境と共に歩んできた独自の慣習などが芦安の魅力として再注目されています。この魅力を「外に」「未来に」伝えるため、地域資源の再調査、エコツアーやフットパスなどの企画運営、多方面と連携した芦安集落の魅力発信などに取り組んでもらいたいと考えています。

3 獣害に強い農作物

◆ 芦安農業の再チャレンジ 芦安産農作物を地域の産業へ

シカ・サルといった野生動物との共生。山に囲まれたこの芦安も他の山村地区に例外なく、努力虚しく荒らされる農作物の姿があります。そんな環境の中で、電気柵の設置や栽培品目の変更など様々な工夫を凝らしてきましたが、鳥獣被害の影響は大きくなるばかりです。昨今、地域おこし協力隊を中心に、獣が食べない農作物づくりに取り組み、一定の成果があげられました。

まだまだ残り増え続ける、耕作放棄された農地を地域の資産に変えるため、地域の産業となり得る栽培品種の試験栽培や、新たな加工品の開発に取り組んでもらいたいと考えています。

4 自然・地域と一体となった豊かな教育環境

◆ 芦安の魅力 そのまま“学び”に

小・中学校で行われる「登山教室」、数十年の歴史を持つPTAによる「学校林整備活動」。

芦安の教育は、常に自然と地域とのつながりの中にあります。この春より芦安小中一貫校となり、さらに特色ある教育環境に恵まれた芦安のこどもたち。ユネスコスクール加盟校、小中一貫型の英会話授業への取り組みなど、特色ある教育環境を求めて地域外からこの「芦安教育」を選ばれています。地域おこし協力隊も、子供たちに芦安の魅力を伝える取り組みとして、各々のスキルを活かして小中学校の自然教育や環境教育の場に携わらせていただいています。

また、集落支援員と連携して、空き家問題など地域課題の解決への取り組みや、地域コミュニティの担い手としての活躍も期待しています。



鳳凰三山への中学校登山教室